

観光業

■観光消費と経済波及効果

急速な人口減少・少子高齢化に伴う地域内の消費ニーズの低下に対し、域外から外貨を獲得し、地域住民の活躍の場を創出していくために、観光が有効な経済施策として位置付けられている。「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを推進し、交流人口の拡大を図ることで域内経済を好循環させ、持続可能な地域にしていくことが望まれる。インバウンド(訪日外国人)需要の拡大が追い風となっている。

観光による消費は、支払いを受けた施設の収入につながるだけでなく、様々な産業へ波及する。観光客が支払った宿泊費は宿泊施設への直接的な需要増加をもたらす。宿泊施設が料理の食材、客室の備品、サービス等を調達すれば、関連事業者へ需要が間接的に及ぶ。各産業でもたらされた利益が従業員へ分配されると、地域内でのさらなる消費を生む。

観光は、旅行、宿泊、交通、飲食・土産といった関連産業だけでなく、卸売・小売業、サービス業、製造業、農林水産業など幅広い産業とも結び付いている。

■統計からみた徳島の観光

観光振興の基礎データとして、観光庁の「宿泊旅行統計」などが整備されており、都道府県別に観光の実態や動向を比較することが可能となっている。

徳島県の観光入込客数、観光消費額は、新型コロナウイルスが流行した2020年にいずれも大きく落ち込んだが、その後回復した。特に2024年の観光消費額は2,499億円で、前年の1,920億円から大きく伸長し、過去最高を更新した【観光-1、2】。

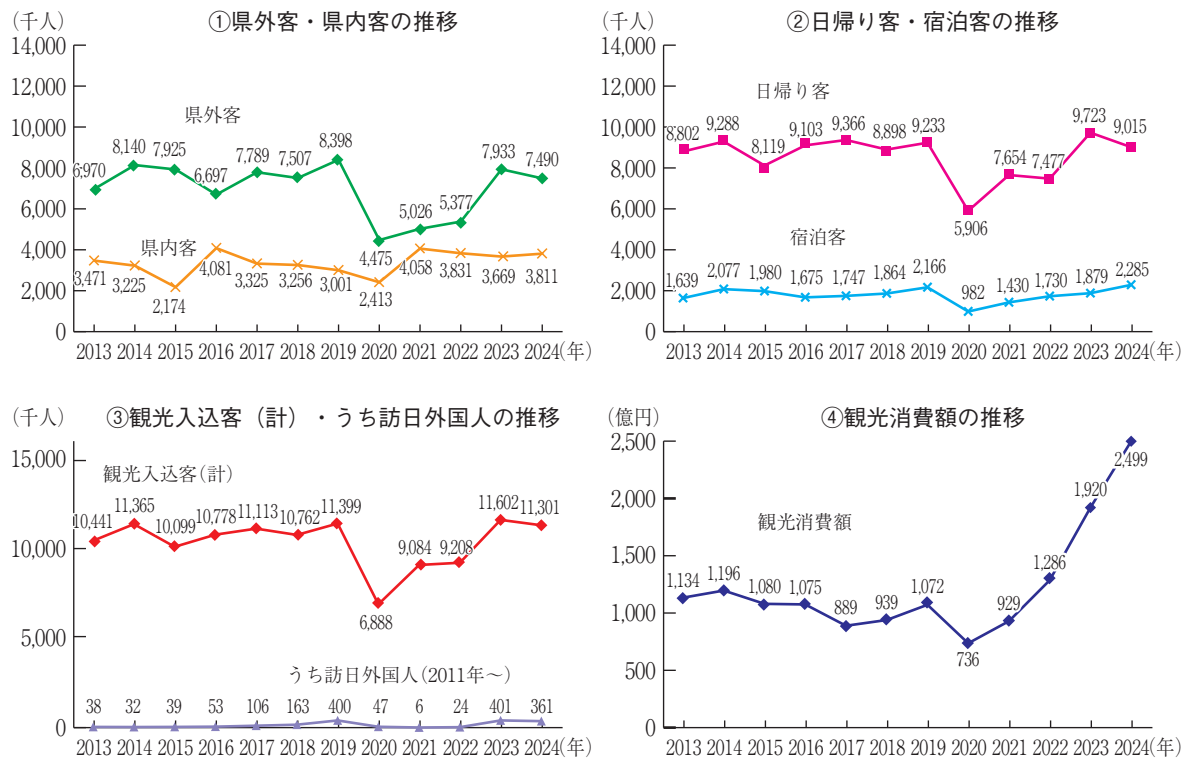
徳島県を代表する阿波おどりは、2020年は戦後初めて全日程が中止となり、2021年は規模を大幅に縮小して開催された。2023年以降は台風や地震の影響を受けながらも通常開催されており、人手も回復傾向がみられる【観光-3、4】。

徳島県の延べ宿泊者数(確定値)は長年全国下位にとどまっている。その背景には、旅館・ホテルの客室数が9,438室(全国46位)と比較的に少ないことが影響している【観光-5、9】。

一方、外国人宿泊者数は2020年から2022年までほぼゼロであったものの、2024年には17.4万人となり、過去最高を更新した【観光-6、7】。また、2024年の延べ宿泊者数の前年比増減率は+8.5%(同17位)となり、一定の回復傾向がみられるほか、旅館・ホテルの客室稼働率は48.6%(同38位)であった【観光-10】。

2024年の徳島県における観光消費額が過去最高となった背景には、歴史的な円安進行による訪日客の購買力向上に加え、徳島阿波おどり空港での韓国・香港路線の定期便就航に

【観光-1】 徳島県の観光入込客・観光消費額の推移



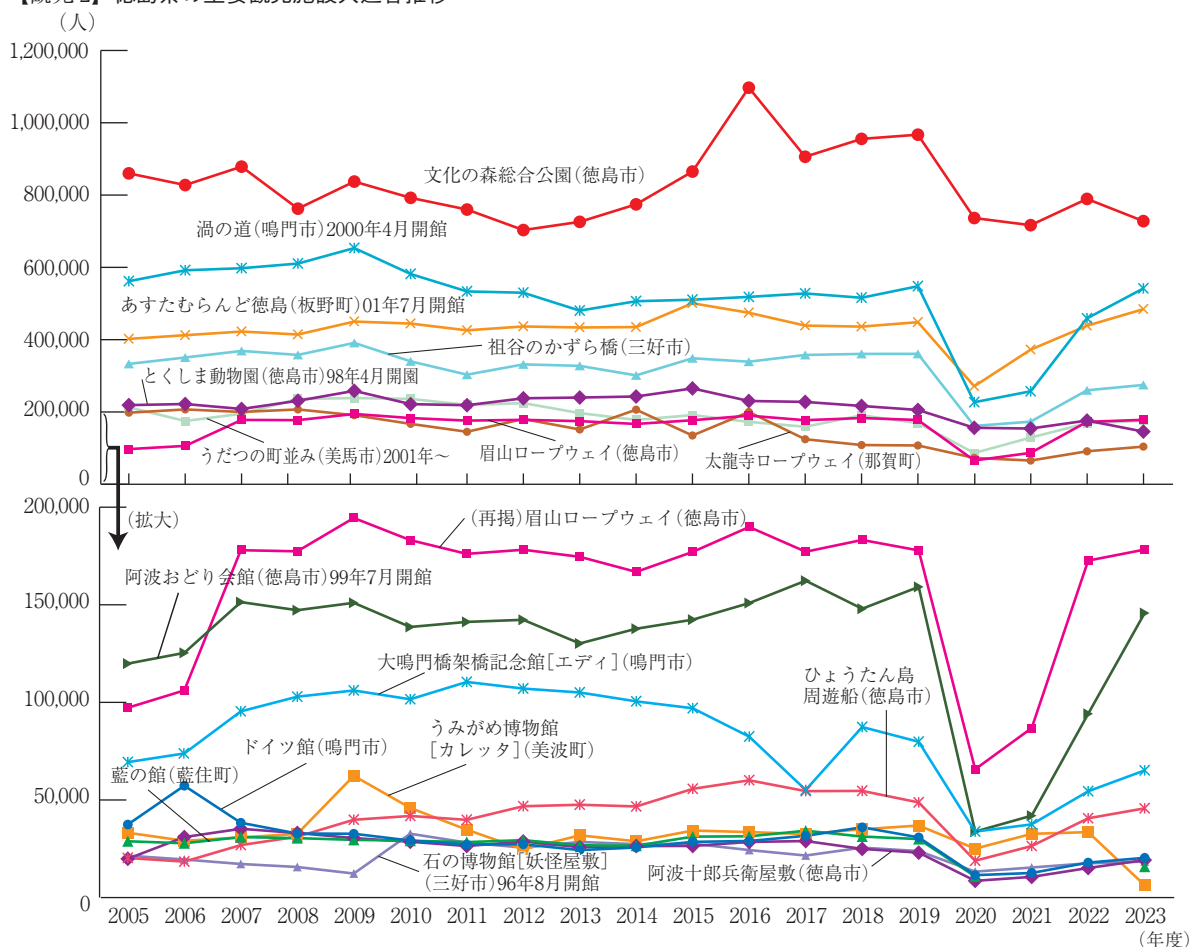
注：それぞれ日本人（観光目的・ビジネス目的）及び訪日外国人の値を合計したもの。

注：観光入込客数は実人数であり、観光地点等ごとの重複を除いた数値（行祭事・イベントを除く）。

注：観光入込客（計）は、県外客+県内客または日帰り客+宿泊客の数値と一致する。

資料：観光庁「共通基準による観光入込客統計」、徳島県「徳島県統計書」

【観光-2】 徳島県の主要観光施設入込客推移



注1：本データの公表は2023年度調査分までとする。

注2：石の博物館は10年4月から妖怪屋敷との複合施設となっている。文化の森総合公園は13年4月から公園のみの利用客を追加している。

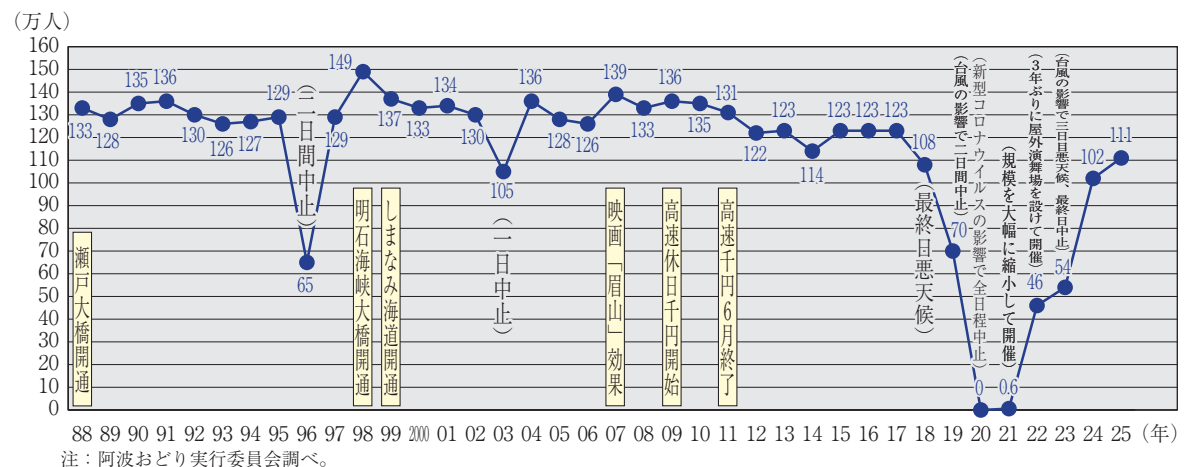
資料：四国運輸局「四国の主要観光地入込状況について」、徳島市「公営企業会計決算審査」

【観光-3】徳島県内の主な観光関連トピックス

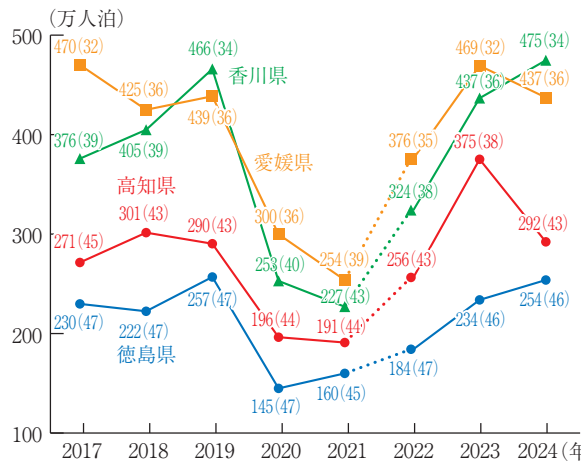
年	徳島県内の観光関連トピックス	観光入込客数
2001	あすたむらんど徳島オープン、四国横断自動車道板野～津田東開通	13,221千人
2002	祖谷・大歩危を中心とした県西部が牽引	13,243千人
2003	「ねりんピック徳島」開催、徳島市阿波おどり悪天候	13,158千人
2004	台風の相次ぐ襲来	12,806千人
2005	徳島ヴォルティスJ2参戦や四国アイランドリーグ発足、愛知万博	12,452千人
2006	映画「バルトの楽園」上映効果や「BANDOROケ村～歓喜の郷」オープン ※「バルトの楽園」は第1次世界大戦中、板東俘虜収容所(鳴門市大麻町)のドイツ兵と地元住民との交流を描いた作品で、徳島がベートーベン「第九」交響曲のアジア初演の地となったエピソード	12,973千人
2007	映画「眉山」上映効果、第22回国民文化祭・とくしま2007(おどる国文祭)開催	13,566千人
2008	「眉山」上映効果継続、全通10周年記念「とくしまマラソン」開催	13,697千人
2009	3月～高速道路休日上限1,000円、NHK連続テレビ小説「ウェルかめ」放送、9月大型連休効果	14,198千人
2010	夏の猛暑で出控え、NHK大河ドラマ「龍馬傳」放送で高知県が注目	8,994千人
2011	東日本大震災、九州新幹線全線開通、6月に高速道路休日上限1,000円の割引制度終了	9,033千人
2012	震災後の旅行自粛の反動増、逆打ち遍路	9,414千人
2013	アベノミクス効果による景気回復でビジネス需要好調	10,441千人
2014	本四高速の全国共通料金金化、四国霊場開創1200年、剣山国定公園・室戸南海岸国定公園指定50周年、瀬戸内海国立公園指定80周年、徳島ヴォルティスJ1初参戦、瀬戸内しまのわ2014	11,365千人
2015	前年の各種イベント反動減、9月に大型連休シルバーウィーク効果	10,099千人
2016	クルーズ船寄港増加や高松空港のLCC便就航等による外国人旅行者増加、逆打ち遍路	10,778千人
2017	高松空港国際線の利用者増等の影響で引き続き外国人旅行者増加、大型観光企画「四国DC」(4～6月)	11,113千人
2018	7月豪雨、徳島阿波おどり空港に国際線新ターミナルオープン(1月)、香港連続チャーター便(1～3月、7・8月)、初となる香港季節定期便就航(12月～2019年3月)、「NHK紅白歌合戦」で県出身の米津玄師氏が犬塚国際美術館システーナ・ホールから出演。	10,762千人
2019	初の民間委託による阿波おどりの開催、「藍のふるさと 阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～」が日本遺産に認定、香港季節定期便運航(12月～2020年3月)	11,399千人
2020	2月に徳島県内で初の新型コロナウイルス感染者が確認されて以降、インバウンド需要はじめ、ビジネスやレジャー、各種イベント、コンベンション等の多くの需要が消失。阿波おどりが戦後初の全日程中止。	6,888千人
2021	徳島ヴォルティスがJ1に2度目参戦、東京オリンピック開催に伴う聖火リレーが県内各地で実施(4月)、阿波おどりが1日少ない4日間開催(前夜祭を含む3日間は屋内、最終日は屋外で無観客)	9,084千人
2022	世界的旅行ガイド「Lonely Planet」が「2022年おすすめの旅行先」に四国を選出、道路と線路の両方を走る世界初の「DMV(デュアル・モード・ビークル)」が注目、「とくしま応援割」(6月～)、「全国旅行支援」(10月～)	9,208千人
2023	新型コロナウイルスが5類感染症へ移行(5/8～)、国内旅行需要が回復する中、観光業界の人手不足が深刻化。	11,602千人
2024	鳴門市内の旧小学校・幼稚園をリノベーションした複合施設で、自然体験、阿波踊り公演、フィッシング等、多彩なアクティビティを提供する「tonaru SHIMADA」、「tonaru SETO」がオープン(6月)	11,301千人

注：観光入込客数については、2010年以降は集計方法が変更されており、2009年以前とは直接比較できない。
資料：徳島県観光戦略局「徳島県観光調査報告書」、観光庁「共通基準による観光入込客統計」

【観光-4】阿波おどりの人出の推移

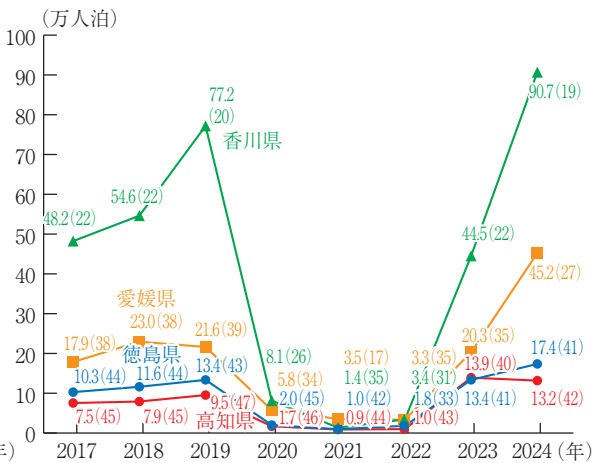


【観光-5】
延べ宿泊者数の推移（全宿泊施設）

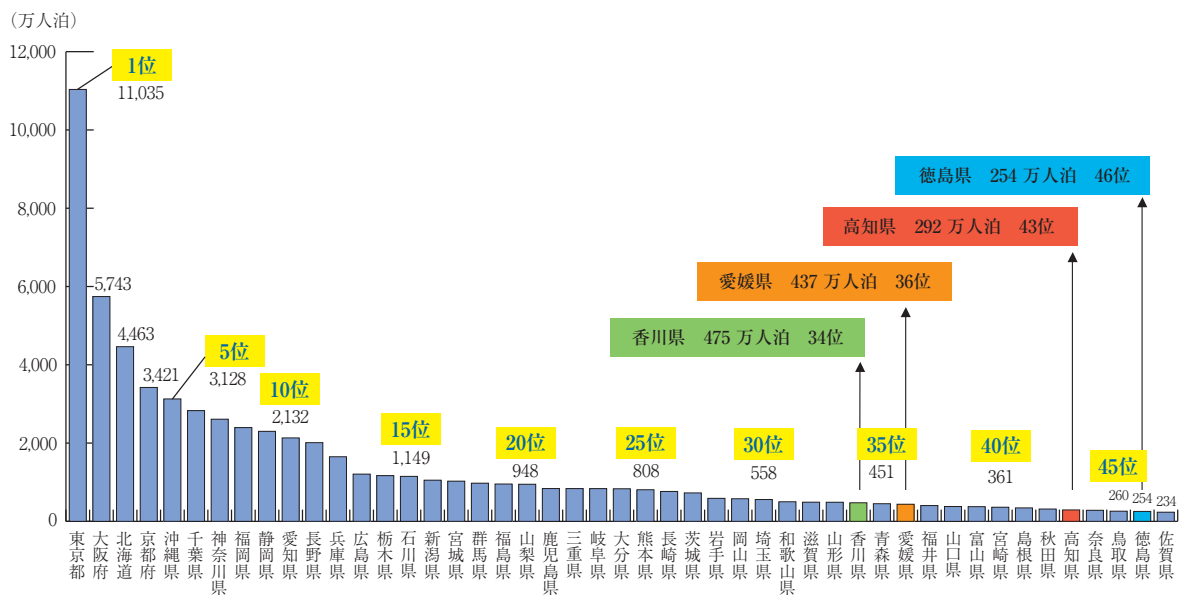


注：図表中の（ ）の数値は、各年の都道府県順位（延べ宿泊者数の多い順）を表している。
注：いずれも確定値
資料：観光庁「宿泊旅行統計」

【観光-6】
外国人延べ宿泊者数の推移（全宿泊施設）



【観光-7】 都道府県別延べ宿泊者数（全宿泊施設、2024年 確定値）

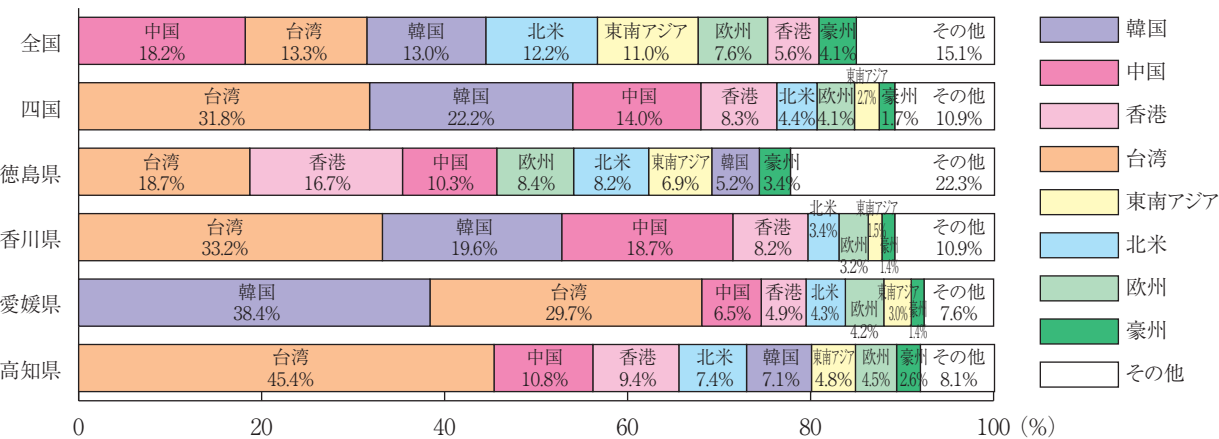


資料：観光庁「宿泊旅行統計」

より、韓国・香港・台湾などの東アジア圏からの観光客が増加したことが寄与したと考えられる。なお、香港路線は2025年9月以降、運休している。

一方、観光施設や宿泊施設では慢性的な人手不足が続いており、受け入れ体制の再構築が進むまで、稼働率を抑えながらの運営を余儀なくされている。その反面、対応策として自動チェックイン機やモバイルオーダーシステムの導入など、省人化に向けた投資が進展した。今後は、円安の進行や国際情勢の不安定化に伴う仕入価格の上昇、人件費を含むコスト増に対応するため、データ活用やAI技術の導入による生産性向上が一層重要となっている。

【観光-8】国籍（出身地）別の外国人延べ宿泊者構成比（2024年確定値）



注：従業者数10人以上の施設に対する調査をもとに作成。
注：北米はアメリカとカナダを、欧州はイギリス・ドイツ・フランス・ロシア・イタリア・スペインを、東南アジアはシンガポール・タイ・マレーシア・インド・インドネシア・ベトナム・フィリピンをそれぞれ便宜的に合算している。
資料：観光庁「宿泊旅行統計」

【観光-9】ホテル、旅館営業の客室数ランキング

順位	県名	旅館・ホテル営業の客室数	旅館・ホテル営業の施設数	順位	1施設あたり客室数	順位
1	東京	212,888	5,858	1	36.3	16
2	大阪	128,519	1,646	7	78.1	1
3	北海道	122,333	2,930	3	41.8	11
33	愛媛	17,664	414	39	42.7	9
41	香川	13,926	332	44	41.9	10
44	高知	10,017	332	44	30.2	26
45	鳥取	9,682	324	47	29.9	27
46	徳島	9,438	407	41	23.2	43
47	佐賀	9,389	329	46	28.5	31
全国合計／平均		1,782,232	52,946	-	33.7	-
徳島県の全国シェア(%)		0.53%	0.77%	-	-	-

■観光地域づくりに向けた取り組み

観光庁は2015年より「観光地域づくり法人(DMO)」制度を創設し、観光地域づくりを推進している。DMOとはDestination Management/Marketing Organizationの略で、①各種データ等の継続的な収集及び分析、②観光地形成戦略策定、③着地整備に関する取り組みの推進、④プロモーション、⑤多様な関係者との体制構築や合意形成などにより、地方誘客・旅行消費拡大を持続可能なカタチで推進する組織である。

2026年4月時点で登録DMOは326団体となっている。このうち徳島県に関係するDMOは8団体で、うち県域を跨ぐ「広域連携DMO」が3団体、複数の市町村に跨がる「地域(地域連携)DMO」が3団体、単独の市町村の区域を対象とする「地域DMO」が2団体登録されている。なお、新たに区分化された、単一都道府県をエリアとする「都道府県DMO」

【観光-10】「宿泊旅行統計」に見るランキング（全宿泊施設、2024年確定値）

延べ宿泊者数の前年比増減率			観光度指数			客室稼働率			1人あたり平均宿泊数		
(2024年確定値／2023年確定値)			(2024年確定値)			(2024年確定値)			(2024年確定値)		
順位	県名	%	順位	県名	倍	順位	県名	%	順位	県名	日
1	石川	31.7	1	沖縄	21.33	1	大阪	75.4	1	東京	1.85
2	福井	24.1	2	京都	13.58	2	東京	75.1	2	沖縄	1.74
3	岐阜	19.3	3	山梨	11.99	3	福岡	72.1	3	京都	1.67
			18	香川	5.18	19	愛媛	55.2	21	徳島	1.31
16	香川	8.7	29	高知	4.45	29	香川	52.9	28	香川	1.29
17	徳島	8.5									
			34	徳島	3.71	38	徳島	48.6	31	高知	1.27
			38	愛媛	3.43	40	高知	46.4	39	愛媛	1.23
45	愛媛	▲6.8	45	茨城	2.59	45	山梨	42.8	45	群馬	1.20
46	神奈川	▲7.7	46	奈良	2.21	46	和歌山	42.6	46	栃木	1.18
47	高知	▲22.1	47	埼玉	0.76	47	長野	39.6	47	山梨	1.17
全国平均		6.7	全国平均		5.32	全国平均		59.6	全国平均		1.43

資料：観光庁「宿泊旅行統計」

注：観光度指数は、全宿泊施設の年間延べ宿泊者数÷(同年)各都道府県人口で算出。宿泊者数が各都道府県人口の何倍かを表したものの。

資料：観光庁「宿泊旅行統計」、総務省「人口推計」(2024年10月1日現在)

資料：観光庁「宿泊旅行統計」

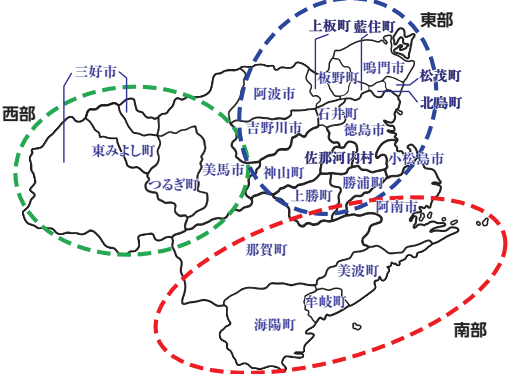
注：1人あたり平均宿泊数は、延べ宿泊者数÷実宿泊者数で算出したもの。

資料：観光庁「宿泊旅行統計」

【観光-11】徳島県に関する観光地域づくり法人（DMO）の登録状況（2026年4月1日現在）

○登録DMO (全国 326 団体のうち徳島県関係 8 団体)

区分	徳島県関係	対象区域(自治体単位)
広域連携DMO	(一財)関西観光本部	福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県
	(一社)せとうち観光推進機構	兵庫県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県
	(一社)四国ツーリズム創造機構	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
地域(地域連携)DMO	(一社)イーストとくしま観光推進機構	徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町(15市町村)
	(一社)みなみ阿波観光局	阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町
	(一社)そらの郷	美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町
地域DMO	(一社)ツーリズム徳島	徳島市
	(一社)美馬観光ビューロー	美馬市



注：日本版DMOは対象エリアの広さに応じた3区分で登録される。

- ・広域連携DMO - 複数の都道府県に跨る地方ブロックレベルの区域を一体とした観光地域
- ・都道府県DMO - 単一都道府県の全域を対象とした観光地域
- ・地域DMO - 単一市区町村の区域並びに複数市区町村にまたがる区域を一体とした観光地域

資料：観光庁HP「観光地域づくり法人（DMO）」
(※ 2025 年 10 月の新ガイドライン施行に伴い、区分が変更されました。)

は登録されていない【観光-11】。

近年、旅行形態は団体旅行から個人旅行へと着実に移行しており、地域固有の自然環境や文化、食、人との交流を体験したいという需要が高まっている。また、観光による環境負荷を抑えつつ、地域社会の文化や暮らしの維持に配慮したかたちで観光を発展させる「持続可能な観光(サステナブルツーリズム)」への関心も広がっている。徳島県には、こうした新たな旅行ニーズに応える地域資源が多く存在しており、経験豊富な旅行者や専門家から注目を集めている。

(井上郷平)

医療

■医療

医療機関には、病院、一般診療所、歯科診療所がある。病院は、20人以上の患者を入院させるための施設を有するものを指す。一方、一般診療所や歯科診療所は病床を持たない、または19床以下の施設を有するものを指す。

○医療施設数と特徴

県内の医療施設状況をみると、病院が103施設で漸減傾向が続いている。病床数19床以下の一般診療所＜有床＞も72施設と漸減傾向にある。病床を持たない一般診療所＜無床＞は606施設、歯科診療所は401施設となっている【医療-1】。

県内の病院を病床規模別でみると、20～49床の病院24施設（構成割合23.3%）と50～99床の病院36施設（同35.0%）で全体の58.3%（全国平均35.8%）を占めており、小規模な病院が多い【医療-2】。

病床種類別でみると、一般病床、療養病床、精神病床など全種類において、徳島県の人口10万人あたり病床数が全国平均を上回っており、特に療養病床、精神病床の占める割合が高い【医療-3】。

また、2024年における県内病院の平均在院日数は全病床34.1日（一般病床17.4日）で、全国平均の同25.6日（一般病床15.5日）よりも長い【医療-4】。

○医療施設の関係者

医療関係者数の推移をみると、県内の看護師数、薬剤師数は増加したものの、医師、歯科医師、保健師数は減少に転じた【医療-5】。

県内で従事する医師数と女性医師数をみると、女性医師数は増加傾向で推移している。女性医師が全体に占める割合は2008年に20.2%と全体の2割を超えた。2024年は25.8%となるなど、女性進出が一段と進んでいる。なお、同比率は1990年以降、いずれの時点においても全国平均を上回っている【医療-6】。

ところで、徳島県の糖尿病による死亡率（人口10万人あたり）は、長年にわたり全国ワースト1位が続いていた。2020年以降は最下位を脱したものの、2024年には全国ワースト3位と、依然として深刻な状況が続いている。【医療-7】。

○今後の県内医療

少子高齢化や、それに伴う疾病構造の変化で医療需要の増加が予想される。特に団塊の

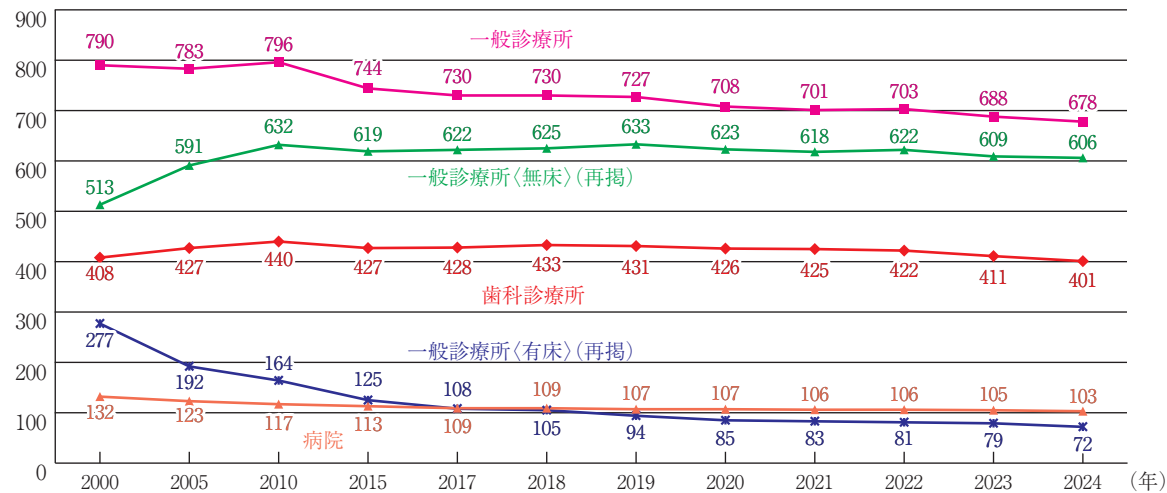
世代が75歳以上となる2025年を経て、医療資源を有効に活用し、効率的な医療提供体制を構築する必要性は一層高まっている。

徳島県は効率的な体制の構築や、適切な医療機能の分化・連携の推進などを目的として、2016年度に「地域医療構想」を策定した。2025年に向け、各医療機能の必要量を二次医療圏(構想区域)ごとに推計し、今後の医療提供体制や施設整備、医療従事者の確保や育成などについて将来像を示している。この構想における県内の必要病床数(2025年)と病床構成(2025年)を比較すると、どの医療機能においても乖離がみられる。回復期を担う病床が不足する一方、高度急性期、急性期、慢性期の病床は余剰が生じている。今後、各圏域の医療をどう展開していくか、医療機関の機能転換を含めた検討・判断が求められる【医療-8】。

(小林なずな)

【医療-1】 徳島県内の医療施設の推移

(施設数)



資料：厚生労働省「医療施設調査」

【医療-2】 病床の規模別にみた病院数（2024年）

病 床	病 院 数		構成割合（％）	
	徳島県	全 国	徳島県	全 国
総 数	103	8,060	100.0	100.0
20～ 49床	24	923	23.3	11.5
50～ 99床	36	1,966	35.0	24.4
100～199床	22	2,773	21.4	34.4
200～299床	11	1,004	10.7	12.5
300～399床	7	665	6.8	8.3
400床以上	3	729	2.9	9.0

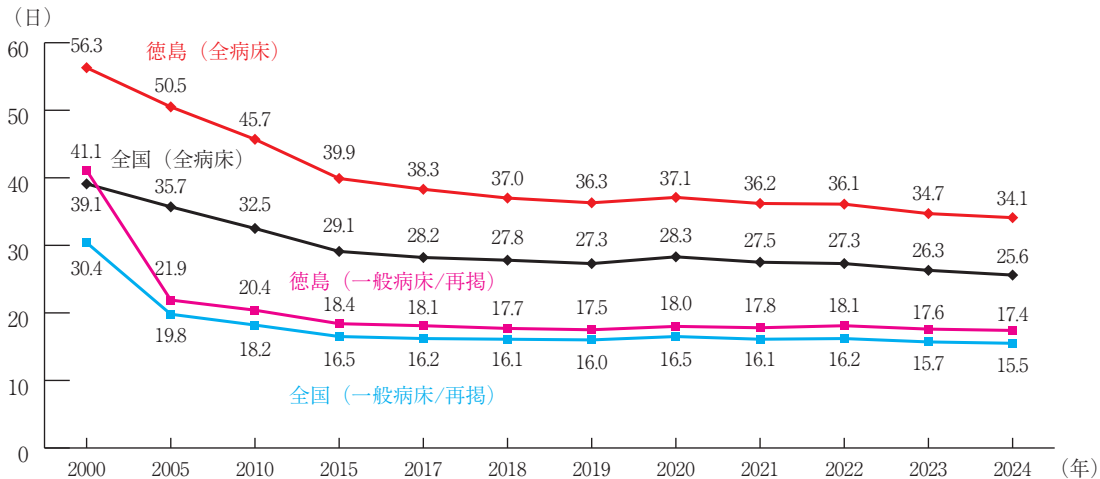
資料：厚生労働省「医療施設調査」

【医療-3】 病院の病床数（2024年）

病 床	病 床 数		人口10万対数	
	徳島県	全 国	徳島県	全 国
総 数	13,083	1,469,845	1,909.9	1,187.3
精 神 病 床	3,575	316,147	521.9	255.4
感 染 症 病 床	23	1,941	3.4	1.6
結 核 病 床	37	3,508	5.4	2.8
療 養 病 床	3,155	268,521	460.6	216.9
一 般 病 床	6,293	879,728	918.7	710.6

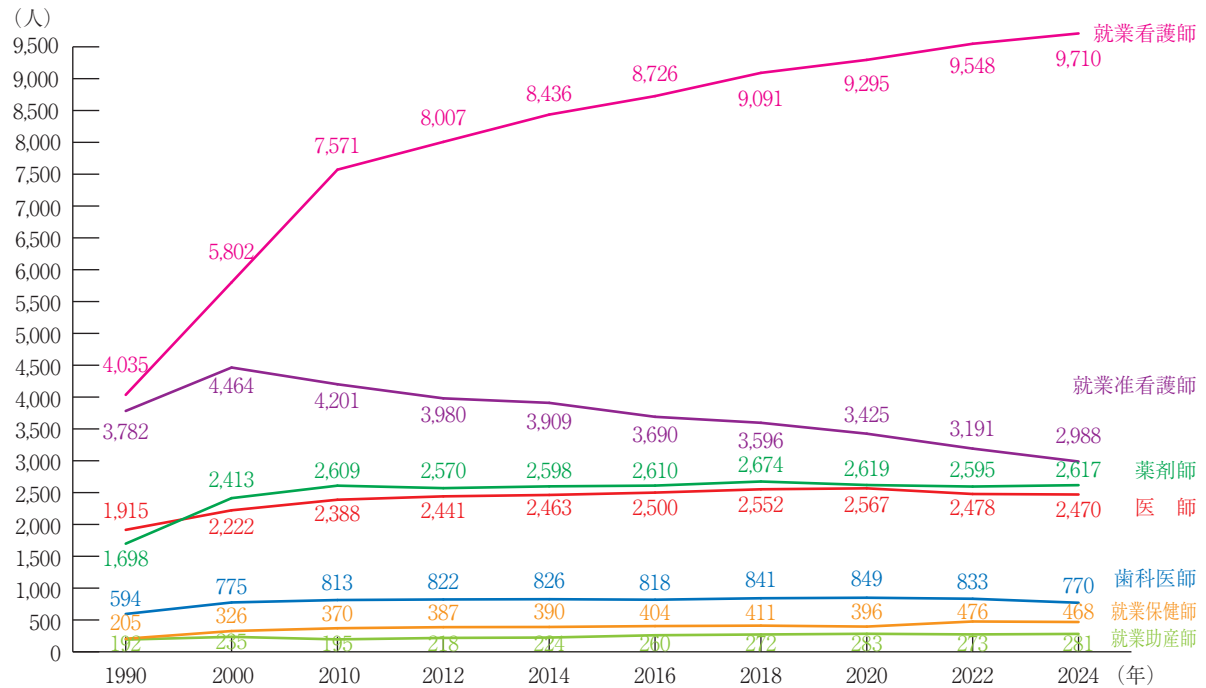
資料：厚生労働省「医療施設調査」

【医療-4】 病院の平均在院日数



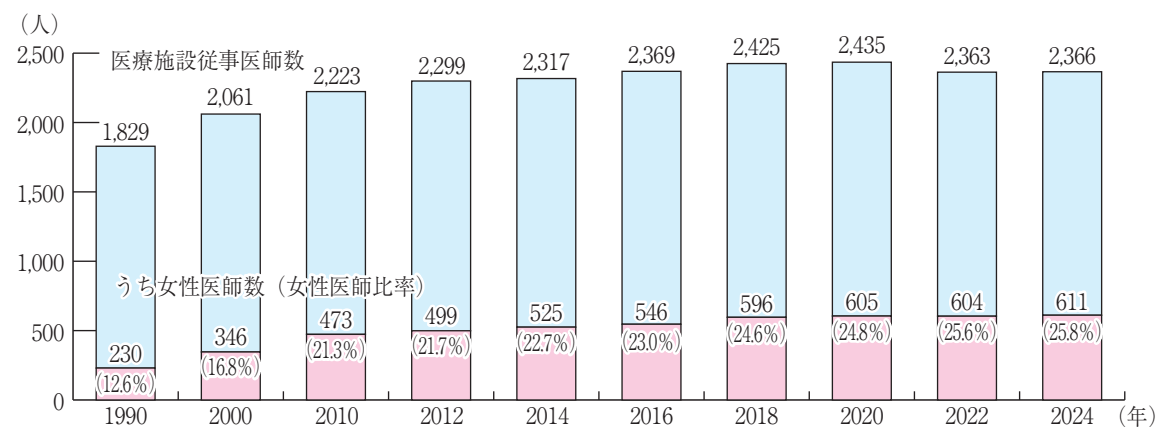
資料：厚生労働省「医療施設調査」

【医療-5】 医療関係者数の推移



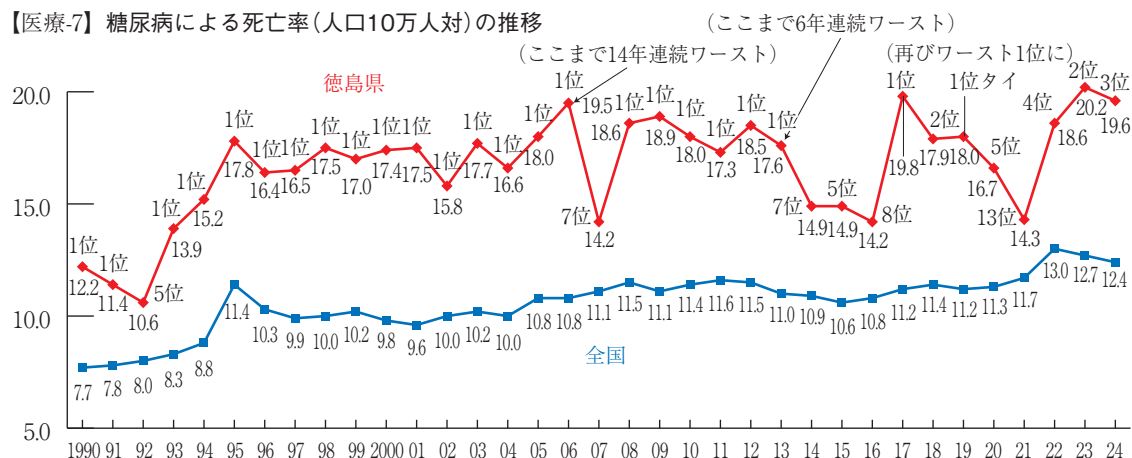
資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、「医師・歯科医師・薬剤師統計」、「衛生行政報告例」

【医療-6】 徳島県の医療施設従事医師数と女性医師数の推移



資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、「医師・歯科医師・薬剤師統計」

【医療-7】 糖尿病による死亡率(人口10万人対)の推移



注：糖尿病死亡率の全国順位（高い順）

資料：厚生労働省「人口動態調査」、「2024年人口動態統計月報年系（概数）」

【医療-8】 必要病床数(2025年)と病床構成(2025年)の比較

(徳島県全体)

医療機能	2025年の 必要病床数(A) (床)	2025年度 病床機能報告での 病床数(B) (床)	(B) - (A) (床)
高度急性期	718	813	95
急性期	2,393	3,310	917
回復期	3,003	2,412	▲ 591
慢性期	2,880	3,362	482
計	8,994	9,897	903

(二次医療圏別の内訳)

	医療機能	2025年の 必要病床数(A) (床)	2025年度 病床機能報告での 病床数(B)(床)	(B) - (A) (床)
東 部	高度急性期	492	530	38
	急性期	1,605	2,548	943
	回復期	2,080	1,535	▲ 545
	慢性期	1,946	2,613	667
	計	6,123	7,226	1,103
南 部	高度急性期	179	283	104
	急性期	514	418	▲ 96
	回復期	613	654	41
	慢性期	557	355	▲ 202
	計	1,863	1,710	▲ 153
西 部	高度急性期	47	0	▲ 47
	急性期	274	344	70
	回復期	310	223	▲ 87
	慢性期	377	394	17
	計	1,008	961	▲ 47

注：表中の(B) - (A)がプラスは「余剰」、マイナス(▲)は「不足」を表わしている。

資料：徳島県「徳島県地域医療構想」、「2025年度病床機能報告」